



校長室だより

令和5年度

6月23日

NO. 14

笑顔の魔法 授業参観・学校保健委員会ありがとうございました

先日、脳科学者の池谷裕二氏のお話を聞く機会がありました。中学1年生の国語の教科書（教育出版）にも、池谷さんが書いた「笑顔の魔法」という、教材があります。こんなお話（説明文）です。彼はこんな実験をしたそうです。ペンを二通りの方法で口にくわえさせ、同じ漫画を読ませ、そのおもしろさを10点満点で点数をつけさせたそうです。一つはペンを縦にしてストローのように唇でくわえる方法、もう一つはペンを横にして歯でかんでくわえる方法です。同じ漫画を読んだのだからおもしろさは同じのはずなのに、結果は違いました。後者のペンを横にくわえて読んだ方が、皆、おもしろいと感じるそうです。決して「笑顔で」と言っているわけではなく、ただ笑顔に似た表情を作るだけで（笑っていなくても）、人はおもしろい、楽しいと感じるそうです。

21日朝の全校集会でも、こんな実験をしてみました。子供たちに、ねむたい顔をして挨拶するのと、笑顔で挨拶するのと、どちらが挨拶をしやすいか、楽しいかという実験です。やはりみんな、笑顔であいさつした方が、大きな声で元気な挨拶ができました。もちろん、そちらの方が、挨拶もしやすくなります。まさにこれが、「笑顔の魔法」でしょう。



お礼が遅れましたが、17日の授業参観および学校保健委員会には、多くの保護者の方にご参加いただき、ありがとうございました。その日1日の中でも、たくさんの笑顔が見られました。中でも、学校保健委員会の中での、上級カウンセラーの浅井君枝先生の「こころぽかぽかコミュニケーションでもっとなかよくなる」のゲームの中では、子供たちにも保護者の方にも、たくさんの笑顔が見られました。いつの間にか笑顔になっていた人や、友達の前なので笑顔でいた子など、みんなの笑顔にはいろいろありますが、笑顔でいるときには、きっと「楽しい」と感じたことでしょう。授業参観を見ていても、（すべてがそうではないかもしれませんが）笑顔が見られる子供ほど、分かったりできたり、一生懸命活動したりして、「楽しさ」を味わっているのだと分かります。池谷さんいわく、「楽しい」という感情が笑顔を作るだけでなく、「笑顔」によって、脳が「楽しい」と認識するそうです。

入学式でもお話したように、学校は「楽しいところ」であるべきだと思います。秦梨のあいさつの標語にも「**は**きはきと、**だ**れにでも、**な**んどでも、**し**ようよ！ 笑顔のあいさつ」とあります。「笑顔のあいさつ」が、学校を「楽しいところ」にし、学校が「楽しいところ」であるためには、学校が「笑顔である」ことが大事です。これまで以上に、子供たちが笑顔でいられるよう、学校でもご家庭でも見守っていきたいと思います。

